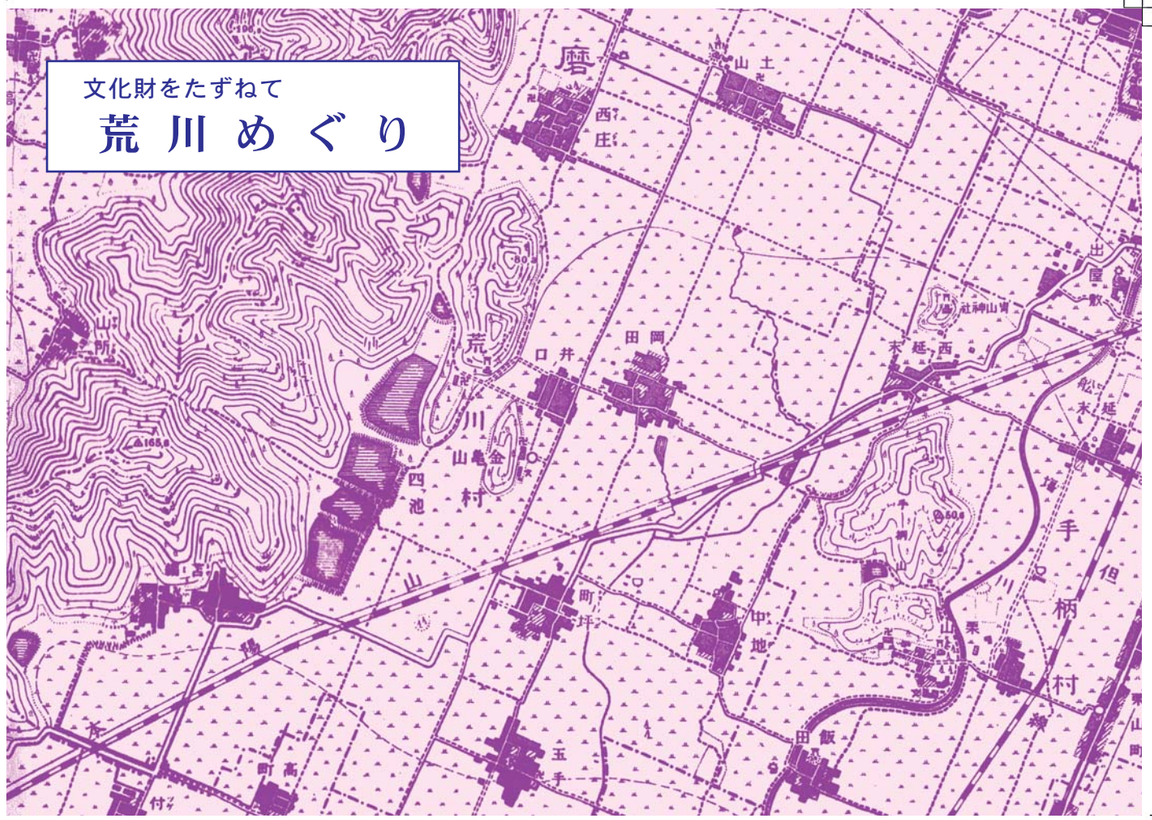


文化財をたずねて

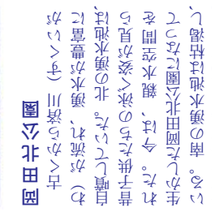
荒川めぐり

法輪寺

寺の由来は安時代に遡る。本尊は行基作と伝えられる薬師如来。天正八年（一五八〇）羽柴秀吉、姫路城攻撃の際、寺を焼き、一時荒廃した。その後、慶長年間に妙心寺派の末寺となり、江戸期に妙心寺のほとり、江戸呼び、「五八の薬師」と称された。本尊の薬師如来は、秘仏で、三年に一度、開帳される。「播磨名所図会」に「荒川の薬師」として挿絵が掲載され、「播磨国名所旧跡巡拝図会」に「荒川の薬師」として挿絵が掲載され、「播磨名所図会」に「荒川の薬師」として挿絵が掲載されている。

岡田北公園（イベントの時）

姫路市の南西部に位置する自然豊かな公園。「岡田の桜」（約三〇〇本）が満開。「岡田の桜」は、「播磨名所図会」に「岡田の桜」として挿絵が掲載されている。



荒神社

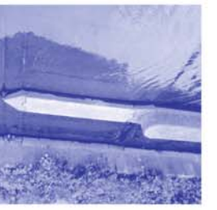
祭神は、水波能女神、手置帆負神、彦狭知神。流川地区の氏神。荒川の日蓮宗の寺院。本殿は、「播磨名所図会」に「荒川の荒神」として挿絵が掲載されている。

岡

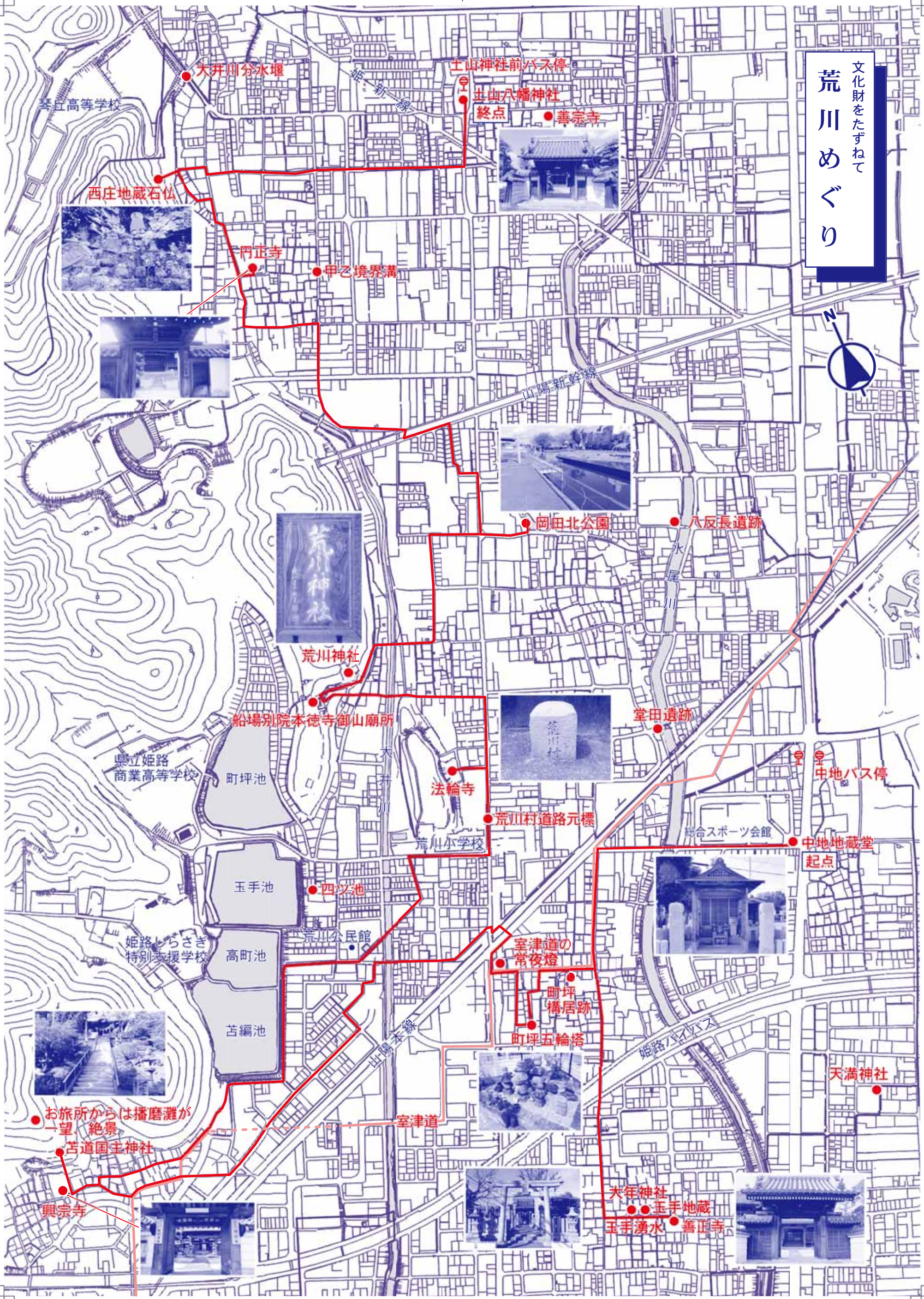
北から町屋川、王手池、高町池、宮領池と並ぶ灌漑用水池。谷のテ方をせき止めて造られた。夢池。荒川地区は、夢池の溜池である。荒川地区の溜池の前川の日蓮宗寺院が建っている。本願寺行基作と伝えられる薬師如来。天正八年（一五八〇）羽柴秀吉、姫路城攻撃の際、焼失した。その後、慶長年間に妙心寺派の末寺となり、江戸期に妙心寺の末寺となった。本尊は、秘仏で、三年に一度、開帳される。「播磨名所図会」に「荒川の薬師」として挿絵が掲載されている。

夢田・八反の長遺跡

岡田集落の南東にある、夢前川の旧流路により形成された沼沢地。昭和五十五年度から遺跡。縄文時代晩期中心とする遺跡。尾川の改修工事等に伴って実施された発掘調査により、石棒・打製石斧など縄文土器や土器とともに、八ケタリ・七タシ・十三ケタ・十三ケタ・十二ケタ・十一ケタ・十ケタ・九ケタ・八ケタ・七ケタ・六ケタ・五ケタ・四ケタ・三ケタ・二ケタ・一ケタ・ケタの数字の刻まれた。



大井三分水堰

姫路市の南西部に、明治九年から二十年代にかけて大井川の水を利用した三分水堰。大井川の水論和解の分水堰。大井川は、「明治三十年大月山中三郎」と「大月」の間に、「明治三十年大月山中三郎」と「大月」の間に、「明治三十年大月山中三郎」と「大月」の間に

文化財をたずねて 荒川めぐり